

# IPS (Intentional Peer Support) 研修を受けて生じた変化、 IPS を知って生じた変化とは何なのかを 一緒に考えてくださる方を募集しています

IPS を学ぶこと、関係性について考えることで、どんなことが起きるのだろうか、どのような変化が生じるのだろうか、その過程はどのようなものだろうか。それを知りたいと考え、IPS 研修を受けた方達と一緒に考える「研究」を計画しました。皆様自身は IPS 研修を受けてどのようなことが生じたか、IPS を学んで何か変化があったか、あったとしたらどのような変化か、今後どのように IPS を学び実践していくことができるか等について、この研修の参加者の皆様と一緒に考える機会をいただくことができれば有り難いと考えました。

このような研究にご協力いただける場合には、また直接連絡させていただきますので、別紙の連絡先記入用紙に連絡先をご記入頂き、宮本にお渡しいただければと思います。

この連絡先記入用紙を頂いた方に連絡をさせていただき、研究の説明をさせていただいた上で、研究に参加していただくことに同意していただくかどうかお考えいただければと思います。

皆様と一緒に考えることができることを切に願っております。皆様のご協力をお願いいたします。

## この研究の概要

---

### 研究課題名

IPS(Intentional Peer Support)に関する質的研究

### 研究機関名及び研究責任者・共同研究者

この研究の研究責任者は下記の通りで、調査のデザイン、調査実施、データの管理・分析、報告書・論文の作成を行います。

・宮本有紀 東京大学大学院 医学系研究科 精神看護学分野 講師

共同メンバーは下記の通りで、研修を実施します。

・久野恵理 Adjunct Research Assistant Professor, the University of Pennsylvania School of Medicine

・Shery Mead Director, Shery Mead Consulting

### 研究目的

本研究の目的は、IPS を学んだことによる変化とその過程を知ることです。研修参加者のご意見を伺い、IPS 研修や IPS の考え方が研修参加者に与えた影響をお聞きする一方で、精神保健医療サービスの利用者-援助者関係のあり方を考えます。

### 研究方法

・2010年7月下旬～2011年8月 研修参加者の感じたことを伺います

IPS 研修に参加した方からお話を伺いながら皆で考えたいと思います。内容は、研修や IPS に対する考え、利用者-援助者間の関係に関する考えなどを予定しています。また、今後どのように実践に IPS を活かしていくことができるかについても考えていきたいと思っています。

## 照会先

---

研究責任者

宮本有紀 \*\*\*\*\*@\*\*\*.ac.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院医学系研究科 精神看護学分野

Tel: 03-\*\*\*\*-\*\*\*\* Fax: 03-\*\*\*\*-\*\*\*\*

## 連絡先記入用紙

「IPS (Intentional Peer Support) に関して考える研究」に関して、担当者より連絡をする連絡先をご記入ください。

ここにご記入いただく情報は、この研究のためにのみ使用します。

宮本に直接お渡しいただくか、FAX03-\*\*\*\*-\*\*\*\*までお送り下さい。

メール\*\*\*\*\*@\*\*\*.ac.jp での御連絡も歓迎です。

(ふりがな)

お名前

---

連絡方法に関するご希望 (☑を入れてください)

私は、  Email /  電話 /  郵便 での連絡を希望します。

---

以下は、連絡を希望する手段のご連絡先のみご記入下さい。

Email \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

---

お電話番号 ( \_\_\_\_\_ )

---

〒 ( \_\_\_\_\_ )

郵送先

---